

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入) 平成 22 年度

事業所番号	2771501083		
法人名	医療法人 浩治会		
事業所名	グループホームゆめの里		
所在地	大阪市東成区大今里西2-17-16		
自己評価作成日	平成 22年 4月 15日	評価結果市町村受理日	平成 22年 7月 23日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.osaka-fine-kohyo-c.jp/kaigosp/infomationPublic.do?JCD=2771501083&amp;SCD=320">http://www.osaka-fine-kohyo-c.jp/kaigosp/infomationPublic.do?JCD=2771501083&amp;SCD=320</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人大阪府社会福祉協議会 福祉サービス第三者評価センター		
所在地	大阪市中央区中寺1丁目1-54 大阪社会福祉指導センター内		
訪問調査日	平成 22年 5月 31日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

外出(散歩や買い物)の要望が多いため、午前と午後、又は利用者様の好きな時に外出できるよう配慮しています。日常生活の中で地域との関わりを持てるよう、馴染みの商店で買い物、地域行事の参加等、地域住民との交流を大切にしています。利用者様一人ひとりが日課や役割、又は楽しみを持ち、意欲的な生活を送れるよう取り組んでおります。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

市街地に立地し、駅から徒歩1分という利便性に恵まれ、家族友人が訪問しやすい環境です。医療法人が運営する2ユニットのグループホームで、介護老人保健施設や居宅介護支援事業所を併設しています。ホームは明るくゆったりと落ち着いた雰囲気となっていて、絵画や生花、作品等が飾られています。また、玄関には職員の紹介コーナーがあり、一人ひとりの写真や趣味、家族紹介や自慢にしていることなどが発信されて、面会者に親しまれています。居室の窓からの眺めも良く、部屋もそれぞれ特色あるしつらえになっています。1日に3便、外出の機会を設けて、午前2組、午後1組、公園や商店、スーパーへと出かけて、利用者、家族に好評です。また、「宝物ノート」を作成して、思い出探を実施し、利用者、家族からの会話をしっかり受け止めて、職員共通のノートとして活用しています。職員は、利用者のゆっくり楽しく当たり前の生活を目指して、地域の方々と共に頑張っています。

### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「1. 誰もがありのままに、その人らしく暮らすことができる施設にします。2. 家庭と変わらない生活をする事ができる施設にします。3. 安心して、楽しく暮らしていただける生活をつくりまします。4. 人間としての尊厳を守るケアを行います。」を基本方針と掲げ、職員間で共有し実践しています。	基本方針として4つ掲げ、また「ゆっくり、楽しく、当たり前の生活を共に」をホームの理念とし、家庭的な環境と地域との交流の下で、利用者が安心して暮らし続けられるよう家族とともに支えています。理念は、職員や訪問者にわかりやすく掲示しています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日常生活の中で、近隣の商店で買い物、地域行事への参加等で地域交流を深めることにより、意欲的な生活を送れるよう支援しています。又、いつも散歩している公園の掃除(ボランティア活動)も行っています。	利用者との朝夕の散歩の時や、商店での買い物時に、顔なじみの方たちと挨拶や会話を交わしています。近隣公園の掃除を担当し、利用者と共にほうきで掃いたり、掃除道具入れの鍵を預かったりして意欲的に地域との関わりをもっています。地域のふれあい喫茶へも出かけています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を地域の人々に向けて活かしている	いつも散歩している公園の掃除(ボランティア活動)を行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域包括センターの職員、民生委員、利用者、利用者家族に参加していただき、2ヶ月毎に開催しています。会議では、運営状況、活動方針、生活の様子、地域活動、行事等の報告や話し合いを行い、サービス向上に活かしています。	運営推進会議は運営規約を作成し、2ヵ月に1回開催しています。地域包括支援センター職員、民生委員、管理者、利用者、利用者家族の参加を得ています。地域の方から行事の予定を教えてもらい、ホームの計画に組み込んでいます。また、地域の消防訓練の日時を教えてもらい職員が参加しています。地域のボランティア情報も教えてもらっています。	今後は、運営推進会議の規約に、守秘義務について記載してはいかがでしょうか。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	事業者連絡会や研修への参加、利用状況、運営内容等全ての情報提供を行うほか、市からの通知や指導に基づき連携体制を確保に努めています。	運営推進会議に出席してもらう他、3ヵ月に1回の事業者連絡会に参加し、情報を得ています。市主催の研修会にも必ず出席しています。提出書類や外部評価の報告、事故報告についても市の担当者に提出しています。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ユニット玄関は施錠していないが、エレベーターは電子ロックとなっている。施錠の閉塞感を和らげるために、午前、午後に散歩や買い物に出かけたり、出来る限り好きな時間に出かけられるよう配慮しています。	エレベーターは電子ロックで施錠しています。しかし、ユニットの玄関は開錠しており、面会の来訪者は自由に出入りすることができます。また、施錠の閉塞感を和らげる工夫をし、廊下に「買い物ツアー」と看板を掲げて、午前に2便、午後から1便と散歩へ瀬回に出かけています。利用者の好きな時間に出かけられるよう取り組んでいます。	今後、安全確認を行い、利用者のわかりやすい方法でエレベーターの電子ロックの番号を表示し、さらに閉塞感を軽減するよう検討することが期待されます。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員全員で虐待に関するDVDを見て、どのような行為が虐待に当たるのか、職員の人権意識を高め、虐待が見過ごされないよう取り組んでいます。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修に参加して活用できるよう支援しています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書や重要事項説明書により、説明を行い、不安や疑問点を尋ね、ご理解・納得をさせていただいています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時、運営推進会議等で意見をいただき運営に反映しています。又、意見箱も設置しています。	面会時に利用者の生活状況を報告し、家族からは要望や意見を聞いています。今までに要望として「散歩に行き、足の筋力低下を防ぎ、長く自分の足で歩いてもらいたい」「車椅子の方の立位訓練を毎日してほしい」「トイレに座って排泄してもらいたい」「趣味の絵、手芸、習字を続けてもらいたい」等があり、実現に向けて取り組んでいます。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体会議、日頃の意見交換で職員の意見、提案を聞き、業務に反映するようにしています。	全体会議を月1回開催し、職員の意見を聞いています。要望や提案についてはユニットで検討しています。掃除については、洗面所、廊下の分担を決めたり、昼食についても各ユニットで分担して、交互にメインのおかずを調理したり、サラダや煮物を作ったりして、利用者と共に楽しんでいます。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回の人事考課を行い、評価、把握の結果に基づき、職員の能力開発及び育成、職務改善及び処遇の適正化を図り、向上心を持って働けるように努めています。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内での内部研修や各部署の代表職員で構成された教育委員会で勉強会を行っています。又、外部研修にも参加し、参加してきた職員は、ホーム内の職員に研修報告会で発表しています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	東成区内のグループホームと定期的に交流会を行い、情報交換、サービス向上のための話し合い等、ネットワークづくりに取り組んでいます。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	常にその人を知ることが出来るよう、接することを心がけ、職員間で情報共有しケアプランの作成につなげています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前、入居されてからも困っていることや要望を聴き、ケアプランに反映しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族の要望を聴き、カンファレンスにより支援の方法を考え、ケアプランを作成しサービスを提供しています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者が孤立することなく、得意な分野を活かせるよう役割をもつていただき、職員が利用者から教えられる場面もあり、一緒に暮らすという意識を大切にしています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族様も一緒に外出されたり、外食にいかれたり、協力的です。又、地域行事でも家族様も参加されます。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者の馴染みの店や人との関係が途切れないように家族と協力している。行きつけの店(食事や美容院)に行ったり、友達が尋ねて来られることもあります。	利用者の馴染みの商店街、美容室やレストランへ出かけています。またホームに友人が尋ねてきています。家族や友人に電話をかける方、また友人から電話がかかってくる方もあり、これまで大切にしてきた関係が継続できるよう支援しています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	お互いの居室に行き来して、利用者同士で手芸を教え合ったりする関係を築いている。又、なかなか関わりを持っていない方には、職員が橋渡しをしています。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	その後の様子を伺ったり、相談等の関係を継続しています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	行事、レク、食事等でなるべく利用者の要望を取り入れたり、個別に行きたい所へ出かけたり、日常生活での接する中で把握し、情報共有できるよう「宝物ノート」を活用しています。	職員は「宝物ノート」を活用して、日頃の会話から聞いたことや思い出話、家族からの情報を丁寧に記録し共有しています。食事メニューについても利用者の要望を聞き、外出についても出かけた所へ外出できるよう支援しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の事前面接、入居後もこれまでの生活歴の把握に努め、職員間で情報共有しています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ケアプランのサービス内容の把握、記録表、熱計表、申し送りノートにより一人ひとりの現状を職員全員で把握しています。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者の要望、心身の状況を把握し、医師や家族の意向も確認した上で介護計画を作成しています。介護計画は家族にも説明し同意を得ています。	入居時には家族、利用者から望みを聞き取り、組み込んでいます。また新たな要望についても聞き取り、計画に活かしています。介護計画書は、各フロアの職員が確認しやすいところに置き、計画に沿って実施できるようにしています。介護計画の見直しは、3ヵ月ごとに行いますが、必要に応じて随時更新しています。モニタリングを毎月実施し、それに基づいてカンファレンスを行い、計画に活かしています。職員全員の意見を反映させています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員全員でサービス経過観察を記録しています。その記録と本人、家族の意向をもとに、3ヶ月毎に介護計画を見直しています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族が行けない場合の病院受診、必要物品の購入など、その時々に応じて対応しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人は心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	警察から交通指導に来ていただいたり、消防署に消防訓練に立ち会っていただいています。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族や本人の希望により、入居前から行かれている病院に定期受診しておられる方もいます。又、協力病院と連携し緊急時の体制を整えています。	近隣には提携病院があります。本人や家族の要望で、かかりつけ医を家族と共に受診されている方もいます。訪問歯科が週1回来訪し、義歯の調整や口腔ケアをしてもらっています。夜間の緊急時を想定して、ホーム入居後にかかりつけ医から紹介状を書いてもらい、提携病院へ依頼して体制を整えています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	今後、看護師との医療連携を行っていく予定です。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	利用者が入院された時には、病院側との情報交換、医師との相談を行い関係づくりに努めています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	現在は、対象者もなく看取りは実施しておりません。今後は、医療連携の体制を作りながら、家族の希望をあわせて看取りの準備を進めていく予定です。	現在は看取りの対象となる方はいませんが、今後は体制を整え、本人や家族と意見の調整を図りながら、医師、職員等の指針を作成していくように検討しています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	勉強会にて、急変時や事故発生時の対応訓練を定期的に行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害に備えるマニュアルを作成しており、年2回消防署の立会いで避難訓練を実施しています。非常時・災害時の食料品と水を備えています。	災害マニュアルを作成しています。年2回、消防署の立ち会い、指導のもとに避難訓練を行っています。地域での消防訓練に職員も参加し、避難方法や救急法等を取得しています。スプリンクラーの設置もしています。災害用食料や水については準備しています。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人間としての尊厳を守るケア、利用者 と接する態度に十分気をつけて対応しています。個人情報の取り扱いは書面で周知しています。	理念にも利用者の尊厳を掲げ、職員一人ひとりがプライバシーに注意を払っています。利用者の個人情報の取り扱いについては、書面にて署名押印をもらっています。日々の介護の場面でも、利用者の誇りやプライバシーには注意を払っています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	食べたい食事、外出、レク、入浴等全てにおいて自己決定を支援しています。買い物に出かけ、食べ物を選んでいただく行為、衣類の選択、外出先等。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々の生活の流れを細かく決めず、利用者の希望やペースに合わせるよう臨機応変に対応しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	以前から行きつけの美容院に行かれる方、衣類も本人と一緒に好きな柄を選んでもらっています。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と一緒に準備や食事、片付けをしている	月に何度か利用者から食べたい物を聞きながらメニューを作成しています。必要な食材は利用者と買い物に行き、選んでもらい、調理、片付けも一緒に行っています。又、利用者の要望もあり寿司の出前を月に1回とっています。	朝夕の食事は併設の厨房から届けられます。昼食については、利用者の好みを聞きながら、届けられた食材と一緒に洗ったり、皮むきをしたり、包丁を持って切ってもらったりしながら作っています。月に1回はお寿司の出前を取り、利用者にとって楽しみのひとつとなっています。介助が必要な利用者には職員が付き、見守りながら支援しています。職員も同じメニューで、利用者と一緒に食事を摂っています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士により食事のバランス、カロリーを計算してもらっています。食事摂取量、水分摂取量、体重の変化も記録にとっています。又、好き嫌いやアレルギーを把握して代替りの副食を用意したり、食事形態も利用者が食べやすいように刻んだりトロミをつけたりして提供しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアは毎食後に実施しています。上手く磨けない方には職員が一部介助を行ない口腔内の清潔保持に努めています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄パターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	声かけによりトイレにて排泄していただけるよう定時のトイレ誘導を行っています。排泄記録をとり排泄パターンの把握。又、トイレの場所が分かりやすいように標示を工夫しています。	定時誘導や早めの声かけなど、できるだけトイレでの排泄を心がけています。オムツ着用の方も基本的には便座に座るよう誘導し、排泄の自立に向け、さらに、便秘等の予防につなげるよう支援しています。日々の排泄チェック表も作成して記入し、支援に役立っています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄記録、水分摂取量を記録し1日の水分量の目安にし、便秘気味の方には散歩にお誘いしたり、食後にトイレ誘導の声かけをしています。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	平均週に3回ゆっくり入浴していただいています。基本的には午後に入浴していただいています。利用者の希望を聞き、好きな日、好きな時間に入っただけよう配慮しています。	週3回を目標に入浴支援をしています。入浴時間は午後ですが、好きな時間や希望があれば毎日入りたい方にも対応しています。菖蒲湯やゆず湯を取り入れ、入浴を好まない方にも入ってもらえるように話し合いながら支援しています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	常に利用者の体調やその時の様子を気にかけ、いつでも静養していただけるよう配慮しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服薬、外用薬の薬効をケース記録や薬確認表にまとめてあり、常に確認しています。又、薬の申し送りノートを作っており、薬の変更時は情報を職員間で共有しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの利用者が意欲的な生活を送ることが出来るよう、常に利用者の興味があることに対して支援するよう心がけています。生け花、書道手芸、個別外出等、利用者の希望に対して出来る限り支援しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	毎日、午前、午後とも外出しています。近隣に散歩、スーパーや商店に買い物、又は、個別に行きたい所へ行けるように家族と協力しながら支援しています。	天気の良い日は朝に2便、午後に1便と、散歩や買い物に出かけています。朝から出かけた方は、エレベーターの前に列を作って待つほど楽しみにしています。利用者はお花見、動物園、紅葉狩りと四季折々にさまざまなお出かけをしています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望する利用者の小遣いは事務所の金庫に保管してあり、買い物時に財布を本人に手渡し、できる方にはお金の支払をしていただいています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本院自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	希望があった場合には電話をかけていただいています。手紙やハガキの返事も書けない方は職員が代筆をして一緒にポストに入れていきます。		
52	19	○居心地のよい共有空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関には手芸作品、スタッフの顔写真、利用者の生けた生け花が飾ってあります。廊下には行事の写真をかざっており、リビングには新聞や雑誌、手芸作品を飾っています。又、ベランダには植物を育てています。食事メニューや飾りつけ、行事等の写真で季節感を感じていただけるように配慮しています。	玄関、廊下はゆったりと広く、遠足の写真、利用者の描かれた絵、書道が貼っています。また、玄関には利用者が生けた生け花が飾っています。休みたいところに椅子を配置し、利用者は思い思いに腰を下ろしてくつろいでいます。食事のメニューもわかりやすく黒板に記載しています。リビングには花や植物が置かれ、癒しにつながっています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下には、椅子が置いてあり、利用者同士で会話したり、一人でゆっくり過ごしたりできるように工夫しています。リビングではソファがあり、テレビや雑誌を見ながらくつろいでもらっています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室にはベッド、ダンス、テレビ、テレビ台、椅子が準備してありますが、本人の使い慣れた家具や馴染みの品物を持ち込んでいただき、使いやすいように配置しています。	各居室はゆったりとした広さで、洗面所が設置されています。ベッド、テレビ、椅子、洋服ダンス、小ダンスが備わっています。孫の写真、絵画を勉強されている方の作品、旅行の写真、書道等を飾られる方、自宅から持参された机やテーブルにお茶セット等、思い思いの部屋でくつろいでいます。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内の利用者が使う扉は引き戸を使っています。廊下は全て手すりを取り付けています。玄関口も段差は無く、歩行して疲れた時はすぐに座れるように所々に椅子を配置しています。		